

TEIKYO HEISEI Sports Journal

Vol.7

デフ・ジャパンの 一員として 世界に貢献



台湾の大会で好投する内山選手(日本ろう野球協会提供)

野球をデフリンピックの 正式種目に

内山浩汰選手

(人文社会学部児童学科3年)

台湾で2月24日〜28日に開催された第1回世界ろう野球大会で、日本代表チームの一員として優勝に貢献した。「日本の野球が世界に通用した」と喜びを噛み締める。

本大会は、聴覚障がい選手だけで構成されたチームによるリーグ戦で王座を争った。参加したのは、日本のほか台湾、韓国、アメリカ、メキシコの計5つの代表チーム。日本は、予選リーグ全勝で1位通過し、上位3チームによる決勝リーグで2勝して優勝を決めた。優勝候補の筆頭と見られていたアメリカにも11・6と大差で勝利した。アメリカは準優勝だった。

聴覚障がいといっても、先天的に聞こえないのか後天的に聞こえなくなったのかなど様々だ。聞こえる音にも個人差がある。高校まではチームメイトが健常者だったため、補聴器を使うなど、声を発すればわかりやすいコミュニケーションが当たり前だった。それに対して、この大会でのチー

ムメイトは全員が聴覚障がい者。ルール上、補聴器の使用は禁止されていたため、「話すだけではない、手話やジェスチャーなど全身を使ったコミュニケーション」がより一層大事となった。大学では手話を習っており、プレーにならなければならなかった。そんな中でも、自分のプレースタイルである「打たせて取る」を貫徹。守備からリズムを作ること、徹底し、見事完封した。10・0の快勝だった。

野球に出会ったのは小学2年生の時。父親の勧めで始めた。周りが健常者ばかりで馴染めるか不安だったが、ボールを手に仲間と触れ合ううちに、野球の魅力にすっかり取りつかれた。小中学生の頃は地元クラブチームに所属。高校では3年間部活動に励んだ。それぞれのチームでキャプテンを務めている。チームをまとめることに悪戦苦闘する毎日だったが、そんななかで見出したのが、「他喜力」という言葉だ。野球、ひいては人生の大き

なスローガンともなっている。

意味は、文字通り、他人を喜ばせる力。野球というスポーツには、選手たちがグラウンドでプレーをするだけでなく、応援しながら観戦するという側面がある。応援してくれる人を喜ばせる、チームメイトを喜ばせる。「他喜力」という言葉のなかには、試合に勝って喜ばせるだけでなく、応援される人柄を目指すことを大切にしている。哲学が詰まっている。

野球の活動だけでなく、学生生活、私生活においても他人を喜ばせること。それを一時も忘れない。

野球と大学生活の両立については意識したことはない。どちらも真剣に取り組むだけだ。

第2回世界ろう野球大会は、2026年に日本で開催される。「ろう野球の知名度を上げ、障がいがある人も野球はできること、楽しめることをもっと広めて活性化させていきたい。野球がデフリンピックの正式種目として採用されるための活動にも力を入れていく」。今後の目標に向かって、学業、野球ともに全力で取り組んでいく。

(若松俊人、大山航平)

Judo 全日本学生柔道優勝大会 女子ベスト16 今後の活躍に期待

団体戦で大学日本一を争う全日本学生柔道優勝大会が6月24、25日に、東京・九段下の日本武道館で開催された。

女子の部で本学は、1回戦で東亜大(中国四国)に3-0で快勝、続く2回戦でも大阪体育大(関西)に3-0で勝利した。ベスト8入りをかけた3回戦では、昨年の大会の準決勝進出校で強豪の東京学芸大(東京)に0-4で敗れた。本学は、昨年の同大会では初戦敗退だっただけに今後に繋がる結果となった。



2回戦、田嶋(左)が大阪体育大の中本選手に大腰で技ありをとる。このあと、上四方も決めて一本勝ち(大山航平撮影)



1回戦、早本(上)が東亜大の竹本選手に後袈裟固をきめ、合わせ技一本をとる(久保田妃菜撮影)

準優勝は環太平洋大(中国四国)。

女子の部には全国9地区の予選を経た38校が出場し、5人一組で対戦した。

1回戦の対東亜大戦では、次鋒の早本媛璃(健康)

医療スポーツ学部4年)が払腰と後袈裟固の合わせ技で一本勝ちすると、続く中堅の田嶋海佳(同学部4年)は払腰と払腰の合わせ技で勝利した。大将の佐藤こよみ(同学部2年)も崩袈裟固で一本勝ちを決め、勝利した。

勢いに乗った本学は大阪体育大との2回戦目でも、中堅の田嶋が大腰と上四方固の合わせ技、続く副将の山崎陽菜理(同学部1年)は小内刈と後袈裟固の合わせ技を決めた。大将の佐藤が払巻込による技ありで勝利し、ベスト16(3回戦)に駒を進めた。

3回戦の東京学芸大戦では、中堅の田嶋が奮闘し引き分けに持ち込んだものの、力の差を見せつけられ涙を飲んだ。

男子柔道 初戦で敗退

7人制団体で戦った男子の部では全国の地区予選を勝ち抜いた62校が出場した。

本学は昨年の大会でベスト16に進出したことからシードにより3回戦からの登場となった。先鋒の稲場龍之介(健康医療スポーツ学部



3回戦で法政大学のベアフット・ロハート選手に積極的に技をかける稲場。試合は引き分けた(中山深撮影)



3回戦で法政大学に敗れた帝京平成大学チーム(大山航平撮影)

1年)、次鋒の野口綱太(同学部4年)、五将の伊藤一牙(同学部4年)、中堅の菊池鷹(同学部2年)、三将の齋藤将輝(同学部3年)が引き分けに持ち込んだ

が、副将の岩本敬太(同学部4年)と大将の浦宜之(同学部4年)が健闘したものの敗れ、0-2で敗退した。

優勝は東海大、準優勝は天理大。

(久保田妃菜)

Soccer women's

関東大学女子サッカーリーグ 前期閉幕 7位で折り返し

第38回関東大会女子サッカーリーグ1部は6月23日の第11節で前期の日程を終了した。本学は第11節終了時点で3勝3敗5分け、7位となっている。

越路萌永主将(健康医療スポーツ学部4年)は、「前期は、引き分ける試合が多く、勝ちきる強さが足りないことを痛感しました」と振り返ったうえで、「後期は前期の課題を、個人としても組織としても最大限に活かして、帝京平成らしさを前面に出した試合ができるように頑張ります」と語った。

1部は、本学のほか東洋大、山梨学院大、早稲田大、神奈川大、日本体育大、東京国際大、日本大、十文字学園女子大、筑波大、国士館大、国際武道大の計12校で構成。前期、後期の2シーズンを戦い、上位8チームは、年末年始の全日本大学選手権に出場する。

第1節 東京国際大戦 1-1

前半16分に先制され1点を追う形で後半に突入。アディショナルタイムの93分、FW太田風砂がゴールを決め、引き分けに持ち込んだ。



神奈川大戦、決勝のシュートを決めた太田のもとに駆け寄り喜び合う本学イレブン(長島俊希撮影)

ムにゴールを決められた。

第6節 国際武道大戦 0-0

前半、MF江崎世来、FW太田風砂がゴールを決め、後半には、太田が2ゴールでハットトリックを達成。DF鈴木董、DF小笠原由衣、MF平川里奈、MF加藤渚もゴールを決めた。

第7節 筑波大戦 0-1

前半31分に先制ゴールを決められ、そのまま相手ゴールを破れなかった。

第8節 十文字学園女子大戦 0-3

前半41分、45分にMF江崎世来とFW太田風砂が続けてゴール。後半の62

第9節 日本体育大戦 1-1

前半30分にFW北川心子がシュートを決めたが、後半で1点を奪い返され引き分けた。

第10節 山梨学院大戦 0-1

62分に1点を奪われ、その後取り返すことができなかった。

第11節 国士館大戦 1-1

前半18分にFW太田風砂がシュートを決めたが、その後1点を奪い返され引き分けた。

(上原蓮、中村天音)

	山学	早稲田	帝平	東洋	日体大	日大	十文字	神大	筑波	東国	武大	国士館
山梨学院大学	\	200	100	0●2	1●2	2△2	100	100	200	0△0	200	0△0
早稲田大学	0●2	\	100	3△3	502	0●1	201	401	1△1	301	201	300
帝京平成大学	0●1	0●1	\	3△3	1△1	1△1	300	100	0●1	1△1	800	1△1
東洋大学	200	3△3	3△3	\	403	403	201	100	201	402	402	402
日本体育大学	201	2●5	1△1	3●4	\	1△1	0●1	100	601	100	201	1●2
日本大学	2△2	100	1△1	3●4	1△1	\	201	2●4	1△1	0●3	1●2	300
十文字学園女子大学	0●1	1●2	0●3	1●2	100	1●2	\	201	0△0	100	200	201
神奈川大学	0●1	1●4	0●1	0●1	0●1	402	1●2	\	1●2	1●2	200	1△1
筑波大学	0●2	1△1	100	1●2	1●6	1△1	0△0	201	\	0△0	1△1	200
東京国際大学	0△0	1●3	1△1	2●4	0●1	300	0●1	201	0△0	\	200	300
国際武道大学	0●2	1●2	0●8	2●4	1●2	201	0●2	0●2	1△1	0●2	\	1△1
国士館大学	0△0	0●3	1△1	2●4	201	0●3	1●2	1△1	0●2	0●3	1△1	\

関東学生柔道優勝大会 男子初の4位へ

関東学生柔道連盟傘下の大学が出席して団体戦で競う関東学生柔道優勝大会が5月26日、埼玉県上尾市の県立武道館で開催され、本学は4位だった。

男子の部は1チーム7人による点取り式のトーナメント戦で行われた。本学は1部に所属し、1回戦で流通経済大と対戦。五将の野口が3分17秒に支え釣り込み足と大内刈りの合わせ技で1本を決めた。続く中堅の菊池が1分33秒に払腰で1本を決めた。これが決まり手となり、2・1で勝利した。準決勝では桐蔭横浜大と対戦し副将の岩本が内股で技ありの優勢勝ちをしたが、1・4で敗れた。

3位決定戦でも山梨学院大に敗れ4位に終わったが、今大会では創部以来初となるベスト4進出を果たした。



男子3位決定戦で山梨学院大のルター選手(左)を攻める齋藤(中山理深撮影)

女子予選リーグ敗退

女子1部は5人制で、本学の他に筑波大、淑徳大、国際武道大、山梨学院大、平成国際大、桐蔭横浜大の計7校が出席。予選リーグはA、Bの2グループに分かれ、上位2校が決勝トーナメントで王座を争った。

本学は、対筑波大戦で大将の白阪光が優勢勝ちしたものの、1・2で敗れ、続く淑徳大戦では0・1だった。

(大山航平、中山理深)



対筑波大戦での白阪=青(中山理深撮影)



神田外国語大との練習試合で、ドリブルで切り込む山田選手=背番号19(大山航平撮影)

Soccer mens

一部昇格を目指して 2部リーグ快勝でスタート

千葉県大学サッカーリーグ2部が6月16日に開幕した。本学は昨年の1部から降格しており、今年は2部優勝で1部への昇格を目指す。

第1節は延期となり、

千葉県大学サッカーリーグ2部には、本学のほかに、東京情報大、麗澤大、千葉大B、国際武道大B、神田外国語大、千葉工業大、江戸川大Bの8チームが参加。

6月23日に習志野・茜浜グラウンドで第2節の対東京情報大戦が行われた。前半15分、45分にMF水原颯士が連続でシュートをきめた。後半には、FW山田蓮、MF篠原大稀、MF前島京介らが相次いで得点し、6・0で大勝した。

千葉県大学サッカーリーグ2部には、本学のほかに、強度高くやっていくということを共通認識とし、攻撃の質を上げていくことを課題にして取り組んでいる」と語っている。

一年生の加入で50人となった新チームについて水原主将は、「二年生が入ってから2か月で、まだまだ自分たちに甘いところがあったり、連携が上手くとれなかったりだが、少しずつ良いチームになっている」とし、橋野監督は「守備に力を入れていく。誰が出ても課題は共通認識として取り組んでいく」と語っている。

千葉県大学サッカーリーグ2部には、本学のほかに、強度高くやっていくということを共通認識とし、攻撃の質を上げていくことを課題にして取り組んでいる」と語っている。

(上原蓮、桑田祥吾)



流通経済大の緑川選手に合技で一本勝ちした野口(大山航平撮影)

Basketball

関東選手権 4回戦敗退



第4クォーター、相手ゴール下に切れ込み、豪快なシュートを決める今津(大山航平撮影)

第73回関東大学バスケットボール選手権が4月13日から5月5日まで開催された。トーナメント形式で行われ、本学は4回戦で敗退した。

シード権を獲得している本学は2回戦の東京農業大戦から登場。22・18と優勢の状態で第1クォーター

を終えた本学は、その後も相手の反撃を許さず、111・49で勝利した。続く3回戦では玉川大と対戦。第1クォーターは18・18と互角の勝負だったが、第2クォーターで29・14と相手との点差を大きく開けた。その後第4クォーターで点差を縮められたが、92・78で勝利した。

順調に勝ち進んだ本学だったが、4回戦の日本大戦は苦しい展開となった。第1クォーターから9・27と大きく点差を開かれ、第2クォーターで少し点差を

縮めたが、その後は点差は広がる一方で、72・117で敗れた。

Cheer Dance

チア本格始動 OCでパフォーマンス

6月30日に開催された今年度第1回の帝京平成大学オープンキャンパス(OC)。

準強化部に昇格したチアダンス部が、練習の成果の一端を披露し、本格的に活動を開始した。



6月30日OCでのパフォーマンスの様子(大山航平撮影)

パフォーマンスは10分間だったが、終了後にインタビューに応じた松本彩佳主将(薬学部3年)は、この日のパフォーマンスについて、「笑顔を絶やすことなく、笑顔に絶やすことなく、笑顔に絶やすことなく、笑顔に絶やすことなく」と振り返った。日頃の練習については、「みんなのレベルが同一になるように注意している」とした上で、「全国大会に出場に向けて全員一丸となって頑張っていきたいと思います」と、今後の活動について抱負を語った。

(久保田妃菜)



対学習院大戦1回戦9回表1死満塁、伊東(洸)の2点タイムリーで生還する佐伯(若松俊人撮影)

東都大学野球春季リーグ開幕

開幕連敗響く 来季に期待

東都大学野球春季3部リーグは5月25日に全日程を終了、2部昇格を目指した本学だったが、開幕2カードでの連敗が大きく響いて3位に終わった。最終成績は6勝5敗。優勝は順天堂大。2部昇格は秋季以降に持ち越すこととなった。

本学は第1週の対順天堂大戦、第2週の対上智大戦で連敗。第3週の対学習院大戦1回戦で、5回表一死二、三塁から9番宇都宮のピッチャー前へのスクイズなどで4点を先制。8回に満塁ホームランで同点に追いつかれたものの、9回、土壇場で打線が爆発し、一挙6点を入れて今季初勝利を手にした。

3部リーグ順位

順位	試合数	勝ち数	勝率	
1	順大	12	10	.833
2	大正大	13	8	.615
3	帝京平成大	11	6	.545
4	学習院大	12	6	.500
5	上智大	11	4	.364
6	成蹊大	11	1	.091

個人成績

打席成績

順位	打席	打数	打率	
8	伊東(洸)	47	40	.325
16	阿部	44	41	.268
17	中島(颯)	49	45	.267

投手成績

順位	勝率	打者	防御	
2	野本	1.000	92	1.16

3部リーグベストナイン

投手	植竹遼	(大正大)
捕手	飯高皓大	(順大)
一塁手	福岡佑度	(大正大)
二塁手	神谷樹生	(学習院大)
三塁手	新井圭悟	(学習院大)
遊撃手	伊東洸佑	(帝京平成大)
外野手	岡島諒	(順大)
	菊地祐汰	(大正大)
	飯塚洸貴	(学習院大)
指名打者	佐々木恵太郎	(上智大)

3部リーグ表彰選手

最高殊勲選手	工藤翔午	(順大)
最優秀投手	工藤翔午	(順大)
最優秀防御率	工藤翔午	(順大)
首位打者	神谷樹生	(学習院大)
新人賞	木戸脇海晴	(帝京平成大)

編集後記

TEIKYO HEISEI Sports Journal vol.7をお届けします。創刊号発行から2年が経ちました。メディア部では新入部員9人を迎え、活動を活性化させています。今号では、フロント面で内山浩汰選手に登場してもらいました。内山選手は「第1回世界ろう野球大会」で日本代表投手として活躍。2026年に第2回を控え、日々精進しています。メディア部が今春注目していた硬式野球部は開幕2カードで連敗しましたが、その後は調子を取り戻し勝ち点を積み上げました。3位に終わりましたが、秋季の活躍が楽しみです。

その後調子を取り戻し、学習院大戦2回戦では、2回に6番伊東(洸)のライントへのツーベースヒットと7番前本のセンターへのヒットで1点先制、6回には8番花塚のライトへの犠飛で1点を追加した。7回に1点を返されたが、1点差を守り抜いた。第4週の対成蹊大戦は、1回戦2-0、2回戦7-3で危なげなく勝利。3回戦にもつれ込んだ第5週の対大正大戦では、3回二死二塁から、1番中島がライントへのランニングツーランホームランで2点を先制すると、4回には、7番對馬によるライトへのタイムリーツーベースヒットなどで2点を追加。6回にも6番阿部のライトへのタイムリースリーベースヒットなどで3点を入れ、圧勝した。



対上智大戦2回戦。前本の2塁打で野口が生還、一時は勝ち越した本学(長島優希撮影)

佐伯颯太主将(健康医療スポーツ学部4年)は、「今季はチャンスでの一打が出ず、打線が繋がらないという野手の得点力不足やエラーの多さから3位という不甲斐ない結果となりました」と今季を振り返った上で、「来季必ず2部昇格できようこの夏を全力で走り抜けます」と決意を新たにしました。(野崎浩洋)

新入部員募集中！ 私たちと本学のスポーツ盛り上げませんか？

- 「選手の力強さ・想いの強さをメディアに！」
大山航平 2年
- 「あなたと会って話してみたい。そんな記者に！」
若松俊人 2年
- 「しっかりとメディア媒体を作りあげる！」
福留陽仁 1年
- 「見やすいメディア媒体を目指す！」
長島優希 2年
- 「心打たれる記事を皆様へ！」
今井和樹 1年
- 「たくさんの方に届く記事へ！」
野崎浩洋 2年
- 「選手の本気を伝える記事に！」
桑田祥吾 2年
- 「帝京平成スポーツの感動を多くの人に届ける！」
久保田妃菜 1年
- 「帝京平成スポーツを最高に盛り上げる！」
上原蓮 2年
- 「読みやすい！わかりやすい！を大事に！」
中山理深 1年
- 「選手の魅力が伝わる記事を読者に届けます！」
若松俊人 1年
- 「相手に伝わりやすい情報提供を心がける！」
栗原琉瑛 1年
- 「また読みたいと思ってもらえる記事にする！」
中村天音 1年

Teikyo Heisei University
メディア部

入部希望者は代表まで 代表者：大山航平 323D15029@edu.thu.ac.jp